

カライトソウ	<i>Sanguisorba hakusanensis</i> Makino	準絶滅危惧
		バラ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。	写真(高橋弘) 
形態の特徴	多年生草本。茎は上部で時に分枝。根生葉は長い葉柄があり、9-13小葉。小葉は長楕円形-倒卵状長楕円形。花穂は花を多数密生し、頂生、點頭し、長円柱形、長さ4-10cm、赤紫色。花は9-10月、小さく、両性で無柄、頂部から咲き始める。花弁はなく、萼片4、宿存性、広卵形、赤紫色。雄蕊6-12、萼片の3倍長、宿存する。雌蕊1。	
生態的特徴	多雪地帯山地の開けて湿った草地や急傾斜地、岩場に生育。	
分布状況	中部地方の多雪地帯山地に分布。日本固有。県内では両白山地、白山山地にやや稀に分布する。	
減少要因	花が美しいので採取される。	
保全対策	採取の抑制。	
特記事項	花弁のように見える赤紫色の萼片は長く房状になり、花穂は長く下垂することも多い。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 27. <i>Sanguisorba</i> L. N. Naruhashi	

文責: 高野裕行